

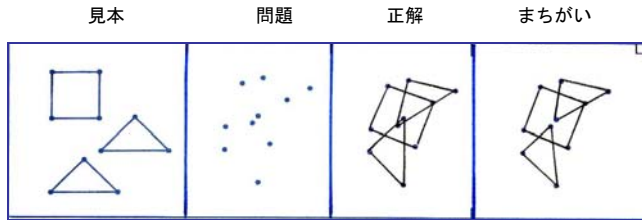


ご紹介する教材は、IE 学習の最も基本的な課題です。これらが抽象的・論理的思考への出発点となります。

教材紹介：IE_Standard

年少児のための IE_Basic と区別して、長い歴史をもつ IE は IE_Standard と呼ばれます。

『点群の組織化』：IE_Standard



IE_Basic

『点群の組織化 IE_Basic 版』は、IE_Standard の課題をより年齢の低い児童に適した形に単純化し、準備課題が豊富に用意されています。



左は IE_Basic の『点群の組織化』の表紙の1部です。夜空にちりばめられた星の中から意味のある図形を見出すのは、認知の働きです。

『点群の組織化』は、アンドレ・レイが考案したテストに基づいていますが、フォイヤーシュタインはこれをダイナミックに発展させ、16ページ、300問におよぶ課題にしました。上の図は、第2ページ目の第4問です。1ページにはおよそ18～25の問題が集められています。

『点群の組織化』に要求される機能としては、仮想関係の投影、形とサイズの識別、向きが変わっても保存される形とサイズ、衝動性の抑制、正確さ、計画性、系統だてて探す行為など、数多くあります。

上の図に示された典型的なまちがいの原因としては、低い正確さへの欲求、目に付いた可能性に飛びつく衝動性、見本図形と比較しようとする行動の欠如、視覚移動の不全、モデルを記憶していないこと、などが考えられます。

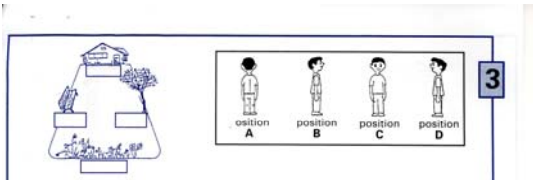
『比較』



上のタスクでは、左端の見本と、同じ列の2つの絵をそれぞれ比較し、与えられた基準に基づいて相違点を指摘します。

自発的な比較行動は、あらゆる認知プロセスの基本となります。自発的に『比較』する習慣は事象間の関係を把握し、外界をさまざまなヴァリエーションを持つものとして認知し、内的な世界を広げていくことを可能にします。最初は、2つの事象間の共通点と相違点を考え指摘することから始まります。上に示されたタスクでは、向き・数・色・形・サイズなど、『比較のための基準』というコンセプトが導入されています。全部で16ページのタスクは絵・言葉・デザインなど表現様式（モダリティー）も多岐にわたっています。『比較』行為の訓練は、知覚を鮮明にし、複数の情報を同時に処理しながら考えることを促進します。『比較』は、言葉の意味を深めていくカテゴリーの獲得を導き、やがては類推、三段論法など高次の操作につながっていきます。豊かな言語活動、想像力がもたらされていきます。

『空間見当識』



空間見当識は、障害がある場合にはなかなかの難問です。空間関係をジェスチャーで示すことはできても言葉で説明することは難しいのです。

空間見当識の発達には、抽象的な関係思考の発達をもたらします。空間見当識の不全がある場合には、複数の事象間にある関係を見出すことが難しいのですが、訓練を重ねると、関係の相対性が理解できるようになります。

上のタスクでは、立ち位置が変化すると、身体の前方、後方、左右にある物も変わってきます。

『IE_Basic : 比べてみよう、へんところをさがそう』

IE_Basic 版の比較課題です。



子どもにとって親しみやすい、ユーモラスな状況が描かれた教材で、「大きい・小さい・長い・短い・太い・細い」など比較の基準を学びながら、必要な情報を全て集めるように導かれます。絵の全体を系統立てて探し、「へんだ！」という洞察を得たら、次にどうすれば、「へん」でなくなるか、それを訂正する方法を話し合います。「もし~なら・・・」と仮想的に考え、それを表現するなど、入力、精密化、出力、すべての段階の機能・操作を強化していきます。話し合いの過程で、親密な人間関係が築かれるのもこの教材の大きな魅力です。

『空間見当識-Basic』



男の子と女の子は向き合っています。棚の人形は、前向きと後ろ向きです。汽車はこちらを向いて走っています。ボールは棚の下にあります。熊にとっては左前方で、金髪の人形にとっては右の後です。

男の子は腕を伸ばしていますが、どっちの腕でしょうか・・・この絵一枚で、いろいろな質問ができます。交互に質問をし合っても、いい学習になります。このページは、右・左を練習するタスクです。この課題でも、リストアップされたほとんどの認知機能を動員しなければなりません。